

コロナ禍のなかで拡大防止対策を施し松戸市議会6月定例会開催

議員を2班に分け交互に出席

コロナ禍のなかで行われた松戸市議会6月定例会は、感染拡大防止策を慎重に取りながらの開催となりました。議場で44人の議員すべてが着席するとソーシャルディスタンスが確保できず、密の状況を回避できません。そのため、本会議では議員を2つのグループに分け、1席ずつ空けてそれぞれのグループが交互に出席するという形式を取りました。

また、議場ではなく委員会室で行う常任委員会などでは、通常の席の配置を変更し、議員が向かい合わないように配慮されました。また議員からの質問に答える職員が発言台には、飛沫防止のシートを設置するなどして、感染を防ぎつつ審議を進めました。

本会議への出席時間を減らす、一般質問での登壇を控えるなどの自粛策は、一部からは「議員の職兼放棄で無責任」との批判もあります。しかし、3密を避け、コロナの感染拡大を防止することで、経済や医療現場を守ることが最重要であることは、国民的なコンセンサスであると判断しました。その上で、しっかりと議案審査を責任を持って行いました。



専決議案連続後の異例の議会

国も地方自治体も、基本的に、国民・市民の了解を得てからでなければ、政策を実行することはできません。特に、予算をとまなう政策には市民の目を届かせることが重要です。それゆえ、市民の付託を受けた議員がチェックをする議会の場合、民主主義においては重要です。

一方で、緊急性など特別な事情がある場合には、行政の代表者の名において、議会に諮る前に政策実行をする専決処分が許されます。その後、開催される議会において事後報告的に議案として上程されます。市においては、市長の判断のもと、この専決処分が行われますが、去る6月定例会は、先議案件がとても多い異例の議会となりました。

いうまでもなく、今はコロナ禍にあって、市民の暮らしを守るために、一刻でも早く政策を届ける必要がある案件があります。ですので、多岐にわたる給付金・補助金などを形づけるための補正予算などが先決処分となることには、一定の理解を示さなければならないと考えます。ただし、これらの予算が適切に執行されたかについては、細かい検証が必要です。来る決算審査においては、通常以上の緊張感をもって、議会における審査を展開することが求められていると感じています。

HPもご覧ください！ **みのわ信矢** 検索

連絡先 松戸市金ヶ作418-94



みのわ^{しんや}信矢 プロフィール

昭和42年 松戸市常盤平生まれ
昭和55年 松戸市立常盤平第一小学校 卒業
昭和58年 青山学院 中等部 卒業
昭和61年 青山学院 高等部 卒業
最終学歴 青山学院大学 経営学部 卒業

市議会議員としての主な経歴

- 松戸市予算審査特別委員会副委員長
- 松戸市決算審査特別委員会副委員長
- 松戸市立病院建設検討特別委員
- 教育経済常任委員長
- 都市整備常任委員長

その他の経歴

- ◇中央学院大学 法学部講師（地方自治論）
- ◇介護事業所 取締役
- ◇NPO法人地域政策研究所 理事
- ◇公益社団法人 松戸青年会議所 常任理事
- ◇松戸市子ども会常盤平地区 会長 など

趣味

- ◆楽器演奏（エレキギター）、読書、映画鑑賞
- ◆学生時代はバスケットボール部